

平成23年度 各校務分掌中間評価

1 教務係

今年度の重点目標

- ①生徒の学力向上を目指す
- ②校務が円滑に行えるように計画・立案する。
- ③生徒の出席状況の把握と先行指導
- ④生徒の豊かな人格形成を助ける。

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	授業アンケートを実施し、その結果を利用した授業改善への工夫	授業評価を実施し、授業改善に努めたか。	A	各教科ともに1学期のアンケートをもとに2学期に望んでいる。
①②	教科シラバスによる計画的授業と定期考査の工夫	計画的な授業が展開でき、学習内容の定着が確認できたか。	B	内容の見直しはほぼ済んでいるが、生徒への反映の点で課題が残る。
①	年3回(3年は2回)の実力テストの結果を利用した学習活動への反映	結果を基に生徒に適切な指導ができたか。適切な準備後処理が出来たか。	A	予備学習帳の配布から後処理までできている。
①②	授業時数の確保	年間計画にのっとり授業時間が確保できたか。	A	急な変更もなく計画通りに進んでいる。
①②	試験時間割・監督の日程	計画的な試験対策勉強が出来る環境を作れたか。	A	今年度初めての試験では若干試験監督の問題から急遽の変更で生徒の影響も否めなかったが、期末以降は計画通りの実施ができた。
①②③	適切な年間計画の作成	年間の様々な行事を適切に配置し、生徒の豊かな人格形成の手助けとなったか。	A	計画通りに進行中
①②	学校自己評価	学校自己評価をとりまとめ、外部に公表できたか。		年度末に評価
②④	LHRの計画・設定	学年・クラス運営に効果的な計画・内容であったか。	A	学年、クラスごとの計画で進んでいる。
②	校内教研・テーマ学習会の立案・実施	研修結果が生徒指導に反映できるよう研修内容・講師選定・時間確保が出来たか。	A	山本昌邦氏の講演会を設営した。
③④	生徒の出席状況の把握と先行指導	毎日の出席状況や1/6、1/5オーバーした生徒を把握し、出席の改善が出来たか。	A	朝会での報告と指導カルテの提出で意識の喚起と指導の確実性を見込んでいる。
②	各種奨学金を生徒に紹介し、奨学金の受給を広げる	一覧表の配布や説明会を実施し、奨学金を生徒に紹介できたか。	A	希望者が増加しており、事務からも1名増員し、速やかな手続きができるようにしている。
②	奨学金主催団体への円滑な事務手続き	奨学金名簿を作製し、必要書類を適正に提出出来たか。	A	同上

2 生徒指導係

今年度の重点目標

- ① いじめ・暴力をなくす
- ② 足並みをそろえた生徒指導。
- ③ 携帯電話の使用について考えさせる
- ④ 貴重品の自己管理を徹底させる。

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

評価項目	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	いじめ・暴力行為に関しての啓蒙活動を行う。またいじめ・暴力が起こった場合、反省をしっかりとさせ	生徒が、いじめ・暴力があつてはならないことであることを認識できているか。	B	二学期中間は統計からするといじめ問題の顕在化する頻度が高い時期なので、生徒指導通信を通じて、いじめ問題が起こらないように呼びかけをしていく。
②	生徒指導関係の決定事項を全職員徹底する。	生徒、保護者から足並みのそろわないことを指摘されたか。	A	服装頭髪や携帯電話使用に関する指導について連絡が一律化、徹底するように、始業式で生徒に確認をして生徒指導通信で保護者への連携をさせる。
③	年度当初に全校集会を行い、携帯電話の使用について考えさせる。また通年で使用についての注意を	携帯電話の使用について自己抑制できるようになったか。	B	夏休み明けより授業中の携帯電話の使用について指導方法を定め実施した。写真の撮影と転送により引き起こされる問題について生徒に意識をさせる。
④	学校生活に必要なない貴重品を持ち込ませない。また、ロッカーを各自で施錠させて貴重品を保管させる。私物については記名をさせる。	盗難が減少したか。	A	年度当初に全校集会と生徒指導通信を通じて、校内で起こった盗難に実態について生徒に把握させ、防止策を呼びかけた。今後引き続き、学校行事の日などを中心に盗難防止を呼びかけていく。

3 生徒会係

今年度の重点目標

- ① 生徒会本部役員のリーダーシップのもと全校が一丸となった学校づくりをすすめる
- ② クラス・クラブ・委員会など様々な生徒集団の中で自立と自治の力をつけさせ、民主的な人格形成を目指す
- ③ 地域・保護者に開けた活動を生み出し、広く社会性を身につけさせる

目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	本部役員の企画力・行動力を育みリーダー集団として成長させる	予餞会・西高祭など各種イベントを主催運営することにより、自らの組織力や行動する力を高める	A	西高祭では全校生徒が主体的に各企画の準備、運営にあたり、成功させることができた。
①	太鼓の伝統を引き継ぐ	太鼓の伝統的な指導を受け継ぎ、生徒会全体あるいは個人の精神的よりどころとする	A	本年度も青木義民太鼓の方々の協力を得て、立派な太鼓演奏を習得し、西高祭等で披露することができた。次年度役員にも伝統を継承させたい。

②	委員会活動を活性化	各委員会はそれぞれ活発に企画運営し生徒会の活性化を推進する	A	各委員会ではそれぞれ精力的に活動をこなすことができた。特に西高祭実行委員会は活性化した。
②	話し合いにより一致点を見つけ協力体制をつくる力を身につけさせる	生徒総会における方針や各イベントの企画の立案を通して討議・決定・実践・総括のプロセスを身につける	B	生徒総会では意見や質問が活発に出され活気ある総会となったが、方針の立案をもう少し綿密に考えさせる必要があった。
②	集団指導体制を通して豊かな資質を育む	イベントなどを通して色々な学年・クラスを超えた生徒、先生の交流をはかり豊かな人間性を身につける	A	学年の壁越えを提唱し、文化祭をはじめ、強歩大会、リーダー研修会などで多いに交流を深めることができた。
③	他校や地域との交流をすすめる	他校との交流あるいは地域的な活動を通して他から学ぶ力や社会性を豊かにする	A	継続的に地域との交流を続けているD-プロの活動に加え、本部役員も参加・手伝い等積極的に交流活動をすすめている。また天津第二中学に表敬訪問し交流した。今後の発展が期待できる。

4 進路指導係

重点目標

今年度の目標

- ① R-CAPを中心とした、キャリア教育の推進
- ② 生徒に適切な進路状況を提供するとともに
- ③ 生徒が進路選択をする際には、自分の経験

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	3年間を見通したキャリア教育を計画し、実施する中で、ぶれない進路指導を行う。	「進路の手引き」等の発行物を有効に活用し、計画通り進路指導ができたか。	A	進路の手引きに今年度新たに、Rキャップの内容を盛り込み、キャリア教育を1冊の冊子で行えるようにした。今後はその活用が過課題となっている。
②	適切な進路情報を随時提供し、生徒の自己理解、職業理解を深める。	進路情報の提供は適切に行えたか。	A	進路だよりをすでに8号発行している。(例年6号)今年度は12号を目標に発行したい。
②	生徒の成績を把握し、その分析を行い、職員団に投げかけることで、職員全体で生徒の学習状況を把握できるようにする。	生徒の成績分析と、発信は適切に行うことができたか。	B	生徒の成績分析は各学年の模試担当によって適切に行われているが、その発信までいたっていない。進路だよりを活用し今後発信のあり方を検討したい。
③	各係と連携しながら、職業体験の場を生徒に提供し、生徒の職業理解を深める。	さまざまな体験の場を提供し、有効に活用させることができたか。	A	2年生では模擬授業を、3年生では面接指導を2回実施した。今後1年生のガイダンス・先輩の話、また書く学年での小論文模試を実施予定である。

③	生徒の学習の場を保障することで、生徒の確かな学力向上を促し、一人でも多くの生徒が第1志望へ合格するように援助する。	補習などが適切に実施できたか。また、生徒の希望に沿った進路実現を実行することができたか。	B	夏期補習・土曜補習は例年通り実施している。今年度は勉強合宿が火事のため中止及び延期となった。そのため、例年ほど学習空間の確保にはいたっていない。今後、生徒の学習時間の補充をどの様にしていくかが課題となっている。
---	---	--	---	---

5 国際教育係

今年度の重点目標

- ①世界各国と本校生徒との国際交流を促進し、
- ②海外からの訪問(生徒・教員)の受け入れや交流会・式典の円滑な運営を行う。
- ③姉妹校との関係を強化し、より多くの生徒の国際交流の機会を提供する

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①③	CCGS短期研修の円滑な実施	募集からオリエンテーション、企画まで滞りなく実施できたか。	A	前年度分の研修が震災の影響で4月～5月にずれ込んだが、当初申し込んだ全員が参加し成果をおさめることができ
①②	短期・長期留学生の受け入れ、送り出し、カウ	募集からオリエンテーション、企画まで滞りな	A	留学生の受け入れに関して、さまざまな企
①	海外修学旅行の補助	学年会と連携して、満足度の高い企画を実現できたか。	A	サイバンのマリアナ高校、メモリアルパー
③	フレンド通信の発行	留学情報の機関紙とし	B	回数発行できたが、もっと情報提
③	留学報告集の発行	年間の活動をまとめた	B	原稿を集め終わるのが夏休みに

6 防災整美係

今年度の重点目標

- ① 管理箇所の点検や防災の推進を図る
- ② 年間を通して校舎内外の整美と美化に務め
- ③ 全校生徒、職員による清掃活動を徹底する
- ④ 学習環境や地球環境の保護意識を高める

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	分担箇所の管理	破損箇所の発見・修理箇所の点検・管理箇所の安全確保	A	・特に大きな問題も無く行われている。
①	防災意識の啓発とそなえ	生徒の防災に対する意識の啓発と、迅速な防災訓練の実施	A	・訓練を迅速に行うことができた。 ・DVDを用いた防災教育も好評だった。
②③	通学路清掃の推進	各クラスで積極的かつ活発な清掃活動を実施(整美委員会が中心になって行う)	A	・クラスごとの活動も定着している。 昨年度と大きな差異は無い。

③④	ゴミ分別の徹底	ゴミ分別が環境に与える影響を理解させ、身近な学習環境から大きく地球環境までを保護する意識を育成・職員の分別作業への参画	C	・依然として分別が徹底できていない。 ・各クラスの整美委員による当番活動は、まだ十分とは言えない。
----	---------	---	---	--

7 人権教育係

今年度の重点目標

①	日本国憲法・教育基本法に基き、生徒一人ひとりが主権者としての自覚を持ち、基本的人権
②	基本的人権を尊重し、差別をしない・差別を許さない生徒を育てる。また、教職員もその
③	学習・研究を教職員は生徒と共にやる。

目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
① ②	学校の中に一切の差別・いじめ等をなくすよう、人権問題の啓蒙をおこなう。	機会を捉え啓蒙活動をおこなえたか。生徒だけでなく教師による教育活動にも寄与できたか。	A	人権映画の感想をとりまとめてレジュメを作成した。データも提供し活用できるようにした。
③	人権映画の上映または、講演会の実施。	生徒の実態に合った内容で実施できたか。	A	生徒の実態にあった人権映画を上映することができた。 『おにいちゃんのハナビ』を上映
③	全校生徒に学習内容の確認をするための取り組みをさせる。	アンケート、もしくは感想文を書く取り組みを通して確認させられたか。	A	4つの観点に絞った感想シートを作成し取り組ませた。考えさせる取り組みとなった。

8 図書係

今年度の重点目標

- ① 図書室の利用を増やすよう工夫する
- ② 本に親しむ環境作りを行う
- ③ より利用しやすい図書館の環境を研究する

※評価【達成度】 A:十分 B:おおむねよい C:不十分

重点目標	評価項目	評価の観点	中間評価
②	朝読書・読書週間の企画・実施。	読書の習慣づけが行えたか。貸出冊数やアンケートから探る。	B
①②③	企画展示等、委員会活動の活発化。	文化の発信地としての図書館の役割が果たせたか。企画展示などで積極的な取り組みがなされたか。	A
①	推薦図書の紹介。	「何を読んでいいかわからない」という生徒へのアプローチができたか。	A
①③	蔵書管理・貸出システムの整備	六＝コードによる貸出の実施と蔵書登録の推進が行えたか。蔵書の除籍基準について研究を行えたか。	B

③	レイアウト等、利用しやすい図書館についての研究をすすめる。	利用しやすい図書館を目指し、蔵書の配置、レイアウト、各メディアの有効利用等、図書館全体の整備を進められ	A
---	-------------------------------	---	---

9 不登校問題対策委員会

今年度の重点目標

①悩みを抱える生徒の居場所を確保しつつ、最終的に母集団に復帰できるよう、各関係者と連携を密にする。

②委員会の定例化

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

目標	評価項目	評価の観点	中間評価	成果と年度末に向けての課題
①	図書館・保健室・相談室を生徒の居場所として保障する。	生徒の居場所として保障できたか。	B	ほぼ達成できたが、相談室利用者の人間関係に変化があった。
①	それぞれの場の利用状況等の連携を密にする。	連携を密ににできたか。	A	委員会や状況にあわせ連絡を取った。 カウンセリグの報告書を関係者に配布した。
①	各学年、生徒の実態を把握する。	①4月中に新1年生…中学時代の不登校などの問題傾向を把握したか。 2・3年生…昨年度の生活一般の行動を追跡し、把握したか。 ②4月後半から学園祭明けまでの生徒の動きを焦点化できたか。	A	①本人・親との面接で中学時代の状況を把握した。 ②各学年会(毎週)で不登校傾向の生徒の報告をしてもらい、実態把握に努めた。
②	月1回委員会の実施	月末に実施できたか。	B	定例化できず。